

新宮山彦ぐるーぷ第1979回

釈迦ヶ岳登山者(太尾登山口)に大日如来座像修復の砂袋荷揚げ 賛同協力依頼の看板設置と深仙宿にセメントなど資材荷揚げ

◇2018年07月01日(日) 小雨後雨、午後には晴間

◇参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、畑林清子、大江加予子、生熊敏男・千満子、村吉光夫、乾克己、湯川一郎、上村洋司・和美、野崎肇、梶野照雄。
計14名。
瀧本昭太郎(7名)。1名。

7時25分、太尾登山口に着くと村吉さんと乾さんが出迎えてくれた。村吉さんは砂利20kgを担いで7時半前に出発、その後乾さんと2人で本体の到着を待つ。

傘が要るほどではないが細かい雨が降っている。天候のせいかな駐車している車は少なく、3台分の空きスペースがある。



村吉さん先行出発



荷揚げ協力依頼の看板設置



8時少し前に沖崎、湯川、上村車が到着、湯川さんは新宮まで帰ってきての参加だ。砂やセメントなどを降ろして、登山口に荷揚げ協力をお願い”看板を立てる。看板の前に2kgの砂袋(砂

利1kg×15袋+砂利1kg×3袋)入ったケースを置いて登山口での作業は終了。MTBを持って登るといふ若者二人に砂の荷揚げをお願いすると快く引き受けてくださった。協力者第一号だ。ありがとうございました。



2kgの砂袋を置く



本日荷揚げのセメント



協力して荷造り

セメント(計42kg)や練り箱などを各自分担、15kgと9kgの荷物を背に8時半に登山を開始した。雨は降ったりやんだり、雨具を脱いだり、また着たりして歩くスピードは速くはない。45分かかって不動木屋登山口分岐に到着。休憩時には、お菓子やミカンなどを女性陣から頂き、わざわざ用意して下さった事に感謝して味わった。

古田の森近くから雨が強くなり、風も少し出てきた。古田の森で休憩、最後尾の生熊さんが少し遅れているので、千満子さんが待つことになった。歩き出してすぐに後ろから会話する声が聞こえたので、極端に離れていたようでは無い事がわかった。10時38分、千丈平に到着。”砂置き場”の看板を設置してMTBの2名が持ってきてくれた砂袋を足元に置いた。

千丈平下で村吉さんに追いついたが、さすがに20kgの荷は

重かったようで、3名の登山者に1kgずつ持って貰ったそうだ。



千丈平到着



砂置き場看板設置



協力者から砂袋を受取る

この3名のうちのお一人が炉端山友会のメンバーで、5月20日の前鬼からの荷揚げの際にも砂を運んで頂いた。MTBの2名は、この3名の方が運んでくださった砂利を大日岳山頂まで荷揚げして下さった。



千丈平で本日参加者



深仙宿に到着



灌頂堂にセメント保管

雨は少し強くなった来て、ところどころ道に水の流れがある中を、深仙宿へ下って行く。11時半、深仙宿に到着。本降りになってきた雨で、大日岳の登りのリスクが高まった事と、山頂にセメントを置いておくことの不安もあり、全員で大日岳登頂は中止した。セメントは灌頂堂にデポし、ケースに入ればビニール袋で包み、できるだけ湿気を遮断した。深仙宿小屋と灌頂堂前に分かれて昼食、小屋ドア内側の掛け金が外れていたので修理。



外れていた掛け金



修理後



深仙宿小屋南側の枯木

児嶋カフェも開店し、雨の中ではあるがゆっくりと休憩できた。村吉さんが砂利を担いで大日岳へ、続いてMTBの2名も大日岳へ出発した。昼食後、上村さんを先頭に6名が先に下山を始め、残りの6名で大日岳へ行った村吉さんの帰りを待つ。待っている間も児嶋監督はじっとしていない。小屋南側の斜面に立つ枯れた木が気がかりになる。小屋前の木が以前台風で根元から折れたときは、幸運にも軒先を少しつぶしただけで済んだが、小屋南側の枯れた木は倒れると小屋を直撃して、棟木に

重大な被害を与える可能性が高い。小屋の上に張り出してあるので、根元から切り倒すのは大変難しいように思える。登って上の方から小切りにするのが最良かと思うが、経験者のアドバイスが求められる。



石積の整備



倒木を移動



「岳人」社員の縦走者

小屋ドア横の石積がブサイクと石を積み直し始めた。一人に任せるわけにもいかず、石を運んだりスコップで掘ったりと手伝い15分ほどで完了し、監督からも「これでエエわ！」と許可が出た。後は村吉さんを待つだけ、と思っていたが、児嶋監督、以前倒れて小屋前に横たわっていた大木の位置が気になるように、全員で動かして西側に移動させた。ガスで真っ白な中、法螺貝の音が聞こえる。音の方角から、村吉さんが大日岳山頂で吹いているようだ。待っている間に単独縦走者が通過、今日は弥山小屋から持経宿を予定しているという。山岳誌「岳人」の社員だそうで、村吉さんがこの後持経宿に入ることやビールもあることを伝えると「頑張つて持経宿まで行きます！」と南下を始めた。写真を一枚、というので小屋をバックに一枚撮ってもらった。記事になるかは不明。



ガスの深仙宿



すっきりした小屋前



村吉さん帰着

しばらくしてMTBの2名が帰ってきた。村吉さんのことを尋ねてみると「山頂で法螺貝吹いてましたよ！」「クサリ場を降りるかどうか悩んでいました」ということだった。

後で聞いたところでは、村吉さんが大日岳の迂回路（捲き道）を通るのは初めてでちよつと迷ってしまい、後続のMTB2名に先に登ってもらって後をついて行つたそう。深仙宿で待っているとは思わず、山頂で法螺貝を吹きゆつくりしていたということだった。

13時頃には雨も止み、13時半に太陽が顔を出した。上空にはまだ雲が多くて、釈迦ヶ岳の山頂は見る事ができない。村吉さんも帰ってきたので14時に深仙宿を離れる。

途中「ほんみち」の架けた木橋の千丈平側が崩れて危険になっているので、ロープを張ろうとしたが、長さが足らずに断念、千丈平に着き砂置き場を確認すると、3袋増えて合計5袋になっていた。

お天気の悪い中ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



木橋傍の崩壊箇所



千丈平に到着



砂置き場

千丈平からはほぼ休憩なしで歩き、16時11分登山口に帰着した。

古田の森付近の笹が両側から登山道にかかり、足元が見えにくくなっている所がある。300m位の距離なので機械の力を借りて笹刈りする必要があるらうだ。



3袋増えて5袋に



古田の森付近の茂る笹



太尾登山口に帰着

登山口には途中で追い越したメンバーのツアー客を迎えに来たマイクロバスが停まっていた。運転手に話を聞くと平地は朝から晴れていたらうだ。

行動タイム

太尾登山口08:30↓古田の森09:57↓千丈平10:40↓11:29深仙宿(昼食)14:00↓14:40千丈平↓16:11太尾登山口(解散)。

(記：梶野)

追記

◇2018年07月02日(月) 雨

◇参加者：瀧本昭太郎。

1名。

今日砂を4袋(1kg×4袋)を深仙のお堂横まで持ち上げました。予報に反し、山は結構な雨で、大日岳まで登るには危険と判断しました。又、時間が取れば行くつもりです。

途中の砂置き場には5袋持ち上げて下さっていました。



千丈平の砂揚げ(5袋)あり。



灌頂堂迄荷揚げ砂袋(4袋)

(記：瀧本)